

山形市 MaaS 導入方針 概要版

MaaS とは

MaaS (Mobility as a Service) とは、モビリティのサービス化のこと。

国土交通省の日本版 MaaS では、一人ひとりの移動ニーズに対応して、複数の公共交通やそれ以外の交通手段を最適に組み合わせることで、検索・予約・決済等を一括で行い、観光や医療等の目的地における交通以外のサービス等との連携により、移動環境向上や地域の課題解決にも資する重要な手段としている。

本市では、公共交通のマスタープランである『山形市地域公共交通計画（令和3年3月策定）』に基づき、様々な移動手段を本 MaaS によって1つに束ね、移動目的と結びつけることで、本市が抱える課題の解決を図る。さらに「山形県地域公共交通プラットフォーム」や「交通系 IC カード」等、公共交通の ICT を活用しながらデータとシステムの整備を段階的に行い、多くの市民や来訪者の移動環境の向上を目指す。

山形市における MaaS の現状

本市では、令和3年度から MaaS 導入に関する勉強会や検討会を開催し、庁内関係部署に加え、交通事業者や国、県からも参加いただきながら具体的な検討を開始している。また、山形県において、県内市町村や交通事業者と協働で令和2年度から「山形県地域公共交通情報基盤」を整備しており、本市で運行しているコミュニティバス等の路線情報をオープンデータ化している。近隣の仙台市では「仙台 MaaS」の運用を令和3年度から開始している。

はじめに

MaaS 導入の目的

本市の公共交通を取り巻く状況として、「高齢者などの不安と多様なニーズへの対応」、「利用が伸びない公共交通サービス」、「日常生活における自家用車の多用」といった様々な課題を抱えている。

特に、自家用車の多用によりさらに低下が懸念される公共交通サービスへの迅速な対応のほか、自家用車の運転が困難な高齢者（免許返納者）の買い物や通院といった日常生活における移動や、自家用車などの移動手段を持たない学生の通学などにおける移動に対する、多様な移動手段の確保と移動サービスの充実が必要である。

このような課題に対応するため、既存の公共交通サービスと ICT 等の新技術を活用した新しい交通サービスを連携し、多様な交通手段の選択を可能とする「MaaS」を導入することで、「自家用車に頼らなくても誰もが快適に移動できる環境の構築」を目指すもの。

導入方針の役割

【導入方針の3つの役割】

- 1 事業の推進体制や推進方法を示す
- 2 MaaS 導入によって解決する課題や目指す姿・目標を明らかにする
- 3 期間内に実施すべき事業の方向性や取り組みを示す

対象となる区域

対象区域は、山形市の全域とする。
ただし、山形連携中枢都市圏（山形連携中枢都市圏ビジョン）、仙山生活圏（仙山圏交通網の充実に向けた仙山線の利用促進及び利便性向上プロジェクト）などの広域的な連携についても検討する。



対象となる移動手段

鉄道・バス・タクシー等の公共交通を基本としつつ、福祉輸送や民間送迎サービス、カーシェア・シェアサイクル・マイカーなどとの連携・役割分担も含めて取り扱う。



取り組み期間

期間は、令和4（2022）年度から令和8（2026）年度までの5年間とする。
なお、社会情勢の変化や関連する法令・制度の変更、上位・関連計画の見直しなどによって、新たな対応が生じた場合は、必要に応じて見直しを検討する。

	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027
山形市地域公共交通計画	2021~2025					2026~	
山形市 MaaS 導入方針		2022~2026				2027~	
		将来像: 約15年後を展望					
		事業: 5年間で優先的に実施すべき取り組み					

MaaS の課題と将来像

課題

山形市の公共交通の現状と方向性を踏まえ、本市における MaaS 導入に向けた課題について、①プラットフォーム、②公共交通サービス、③生活・観光サービス、④広域連携の4つの分野に分けて整理した。

- ① プラットフォーム
- ② 公共交通サービス
- ③ 生活・観光サービス
- ④ 広域連携

ターゲット

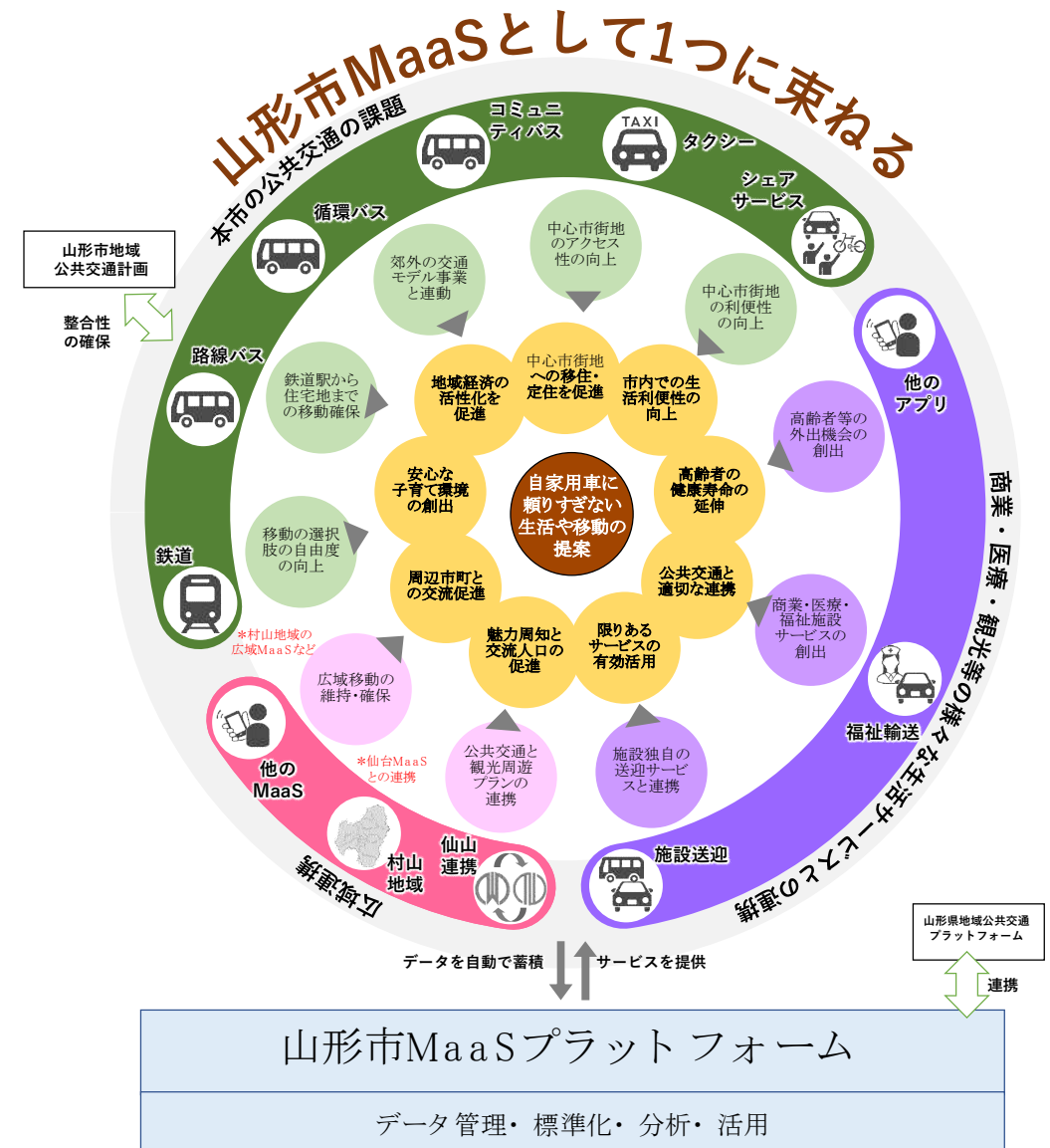
山形市で暮らす・訪れる全ての人を対象とするが、利用者のニーズごとに適したサービスを提供する。

（市民：高齢者、学生、子育て世代、ビジネスなど 来訪者：観光客、学生、ビジネスなど）

山形市 MaaS の将来像

以上を踏まえて、山形市 MaaS の将来像は以下のように定める。

なお、この目指す姿は、山形市地域公共交通計画が定める「公共交通ネットワークビジョン」と同様に、約15年後を展望したものである。



具体的な取り組みとスケジュール

将来像（目指す姿）の実現に向けて以下のような取り組み事業を行う。

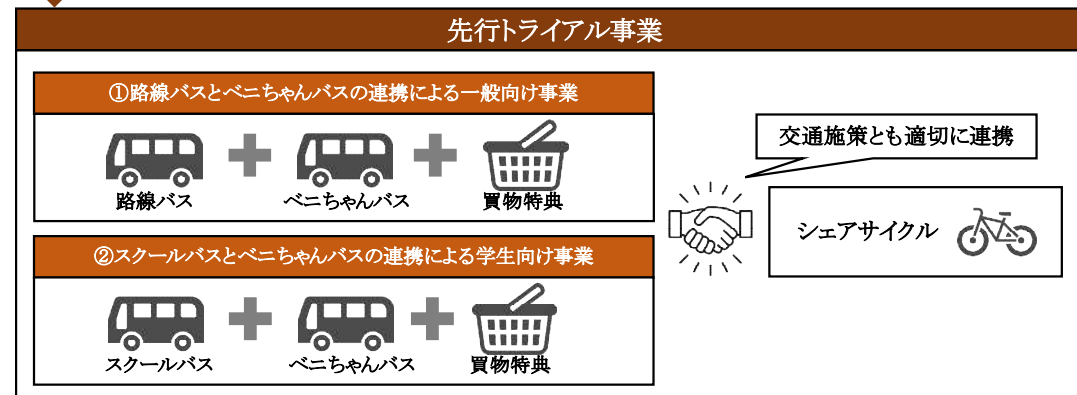
本市における MaaS 導入の第一段階として、早期に着手できる取り組みを先行トライアル事業として位置付け、検証を行いながら次年度以降の対象・分野拡大を目指す。

(先行トライアル事業)

NO.	分野	施策	具体的な取り組み	ターゲット	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	中長期	
1	プラットフォーム	①山形市 MaaS プラットフォーム・アプリの整備	・山形市 MaaS アプリ・プラットフォームの基盤作成 ・山形市 MaaS アプリのカスタマイズ ・データ整備	—	・山形市 MaaS アプリ・プラットフォームの基盤作成	データ整備(随時対応)	山形市 MaaS アプリのカスタマイズ(随時対応)				
		②山形県地域公共交通情報共有基盤との連携	・AIによる効率的な経路検索・空車時間の有効活用 ・「山形県地域公共交通プラットフォーム」におけるオープンデータを活用したデジタルサイネージ等のバス案内	—		AIによる効率的な経路検索・空車時間の有効活用				・「山形県地域公共交通プラットフォーム」におけるオープンデータを活用したデジタルサイネージ等のバス案内	
		③交通系ICカードの利用拡大	・地域連携ICカードの導入・利用促進・拡大 ・ODデータの取得・分析・活用	—	・地域連携ICカードの導入 ・ODデータの取得	地域連携ICカードの利用促進・拡大(随時対応)	ODデータの分析・活用(随時対応)				
2	交通サービス	①中心市街地の更なる利便性向上	・コミュニティバスと路線バスとタクシー等との連携チケットの発行	すべて	・コミュニティバスと路線バスとの連携	・コミュニティバスとタクシーとの連携 ・コミュニティバスと空港シャトルバスとの連携					
		②シェアサービスの導入	・シェアサイクルの導入 ・カーシェアとの連携 ・シェアサービスとバス等との連携チケットの発行	すべて	・シェアサイクルの導入	・カーシェアとの連携				・シェアサービスとバス等との連携チケットの発行	
		③新たな公共交通との連携	・公共交通モデル事業との連携 ・AIオンデマンド交通の導入 ・自動運転の導入	山形市民	・公共交通モデル事業との連携	AIオンデマンドの実証運行				・自動運転の実証運行	
		④タクシーを活用した様々な移動手段の確保	・相乗りタクシーの運行システム構築(予約・利用者マッチング等)	山形市民(郊外在住)					・相乗りタクシーの運行システム構築		
		⑤広域の利便性向上	・鉄道と高速バスとの連携チケットの発行	すべて							・鉄道と高速バスの相互利用チケットの発行 ・高速道路との連携
3	生活・観光サービス	①施設サービスや居住地、駐車場との連携	・施設で利用可能な割引ポイント・クーポンの発行 ・スクールバスとコミュニティバス等との連携 ・スクールバスのオープンデータ化 ・商業施設送迎バスのオープンデータ化 ・病院送迎バスのオープンデータ化 ・グリーンスローモビリティの導入 ・駐車場、高速道路との連携	すべて	・施設で利用可能な割引ポイント・クーポンの発行 ・スクールバスとコミュニティバス等との連携 ・スクールバスのオープンデータ化	・商業施設送迎バスのオープンデータ化				・病院送迎バスのオープンデータ化 ・グリーンスローモビリティの導入 ・駐車場との連携	
		②健康アプリとの連携	・ICシルバー定期券のデータ分析 ・SUKSK健康アプリとの連携	山形市民(高齢者)		ICシルバー定期券のデータ分析(随時対応)				・SUKSK健康アプリとの連携	
		③観光資源・観光事業者との連携	・AI動向分析によるモデルコースの提案 ・観光ガイドのオンライン化 ・観戦・鑑賞と交通サービスの連携チケットの発行 ・アプリケーションの多言語化	観光客等		・AI動向分析によるモデルコースの提案		・観光ガイドのオンライン化	・観戦・鑑賞と交通サービスの連携チケットの発行	・アプリケーションの多言語化	
4	広域連携	①仙台市との連携	・仙台 MaaS との連携 ・仙山圏交通網の充実に向けた仙山線の利用促進及び利便性向上プロジェクトとの連携	すべて		・仙台 MaaS との連携				・仙山圏交通網の充実に向けた仙山線の利用促進及び利便性向上プロジェクトとの連携	
		②村山地域(6市7町)との連携	・山形県地域公共交通計画との連携 ・連携中核都市圏の取り組みと連携	山形市民 村山地方住民		山形県地域公共交通計画との連携(随時対応)				・連携中核都市圏の取り組みと連携	
		③その他 MaaS との相互連携	・JAL MaaS との連携 ・TOHOKU MaaS (JR東日本) との連携	山形市民 観光客等		・JAL MaaS との連携		・TOHOKU MaaS との連携			

先行トライアル事業

市民の様々な移動を支えることを目的に、「スマートフォン・インターネットへの親和性」や「公共交通の利用ニーズ」の高い若者をメインターゲットとしつつ、高齢者や子育て世帯なども対象とし、本市が運行するコミュニティバスと路線バス、大学スクールバスと連携することなどで市内の移動利便性と回遊性を高めることをメインの取り組みとする。加えて、補足的な取り組みとして、シェアサイクルによる中心部の細やかな移動手段の提供を検討する。また、移動だけでなく、市内の商業施設等の活性化を目的として、利用者に買物時の特典を付与することも検討する。

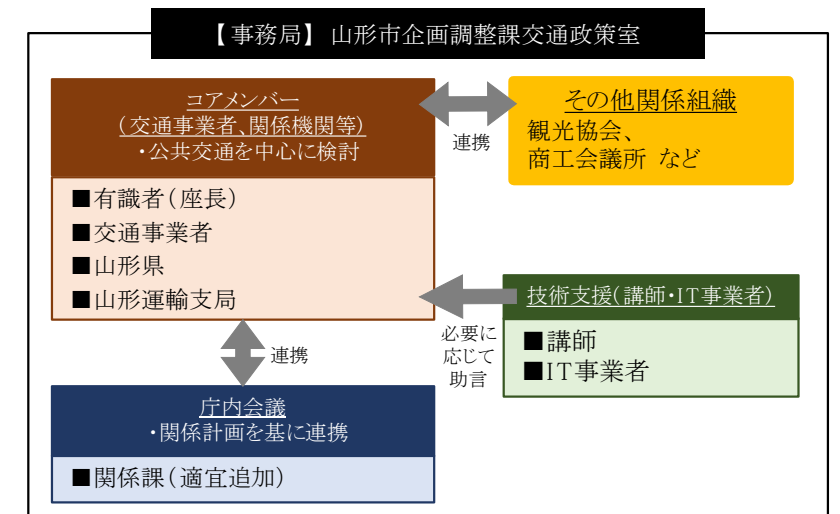


推進体制・今後の進め方

コンソーシアムの設立

山形市 MaaS を効果的かつ効率的に提供・運営するため、公共交通（静的・動的データおよび予約・決済データ）を主として議論を行うコンソーシアムを設立する。コンソーシアムは、導入方針の策定に関わったコアメンバーを中心として、必要に応じ他のメンバー（関係課・ICT企業・経路検索事業者・交通以外サービスなど）を加えながら、施策の実施体制を整える。

なお、本導入方針全体の達成目標については、上位計画である「山形市地域公共交通計画」に準ずるものとするが、事業の評価・検証を行うため、各事業の事業計画において実施目的を整理するとともに、導入効果・目標の設定を行う。



取り組みのステップ

事業の推進にあたっては、下図に示す取り組みのステップに沿って早期に着手可能なものから順次実施するものとし、評価・検証・見直しを行いながら取り組みを拡大する。

